

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部		
	課名	商工振興課		
	係名	商工振興係		
	記入者		電話(内線)	218

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	観光地域づくり推進事業(地方創生)				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業				(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)			
② 施策コード	34101	(総合計画掲載ページ 106 ページ)		会計区分		一般会計				
基本目標(政策)	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)					財源区分	国庫補助			
基本施策	3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観光)					予算科目	款 7	項 1	目 5	
施策	①地域資源を活用した観光の振興					予算書上の	観光地域づくり推進事業費			
施策内容	1地域資源を活用した観光の振興					事業名称	(予算書 ページに掲載)			
(5) 事業期間					(8) 事務分類		自治事務			
	開始	平成	27	年	月から	根拠法令				
	終了			年	月まで (力年)					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
①観光客及び後継者 ②・③観光客	結城紬産業は、きもの離れなどの要因により減少しており、技術継承が危惧されている。しかし、結城紬は、技術の高さと伝統技法を受け継いでいる点などが評価され、国の重要無形文化財及びユネスコ無形文化遺産にも指定された。結城紬の活性化を図るため、知名度の向上及びブランド力の強化を図るとともに、後継者の育成を行っていく。同時に、新しい人の流れををつくり観光客の誘客を図る。さらには、結城紬のPRとインバウンドを見据えた事業展開を行う。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
①結城紬ブランディング事業 結城紬の情報発信拠点施設となる伝統工芸館のリニューアルを行い、ユネスコに登録された技法である糸つむぎ・緋くくり・地機織りの後継者育成プログラムを開講する。 ②結城紬プロモーション事業 首都圏の方を対象にモニターツアーを開催し、調査・分析を行う。また、経済産業省主管の絹のみち広域連携プロジェクト参画における地場産業の販路拡大への助成を行う。 ③新商品の開発支援事業 結城紬を活用した新商品を開発し、土産品の創出を行う。	きもの文化の衰退及びきものを着る機会の減少により、地場産業である結城紬の生産規模も減少していることから、後継者の確保するとともに、きもの文化の情報発信拠点施設を整備し、観光客の誘客を図る。小山市は平成27年度に先行型交付金を利用し、小山クラフト館(ロブレ)に整備した。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
結城紬の生産反数は年々減少している。今後、産業の振興と結城紬のPRに向けて継続して実施していく。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
実施計画							
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）	
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	需用費	700					
	委託料	5,300					
	工事請負費	10,000					
	負担金補助及び交付金	6,000					
	合計	22,000					
	国庫支出金（千円）	22,000					
	県支出金（千円）						
地方債（千円）							
その他特定財源（千円）							
一般財源（千円）							
合計（千円）	22,000						
補助・起債制度名		加速化交付金					

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名		目標値							
		実績(見込)値							
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	伝統工芸館の来館者	目標値	人		1,500	2,500	3,000	3,500	
		実績(見込)値		800	1,500	2,500	3,000	3,500	
		達成率		22.9 %	42.9 %				
	インバウンド観光客	目標値	人		40	60	80	100	
		実績(見込)値		0	40	60	80	100	
		達成率		0.0 %	40.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	産業の振興及び結城紬のPRを行う上で、必要性が高い。					
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	市が関わる部分と紬関係団体の役割分担を決め、実施していかなければならない。					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	市が関わる部分と紬関係団体の役割分担を決め、実施していかなければならない。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	偏りがないように調整する必要がある。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	市民や観光客の誘客を図る。					
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	結城紬の魅力や発信だけでなく、販路に結びつくようにしなければならない。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	多様な誘客方法も考えていかなければならない。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、国内外からの観光客の増加が見込まれるが、各団体や関係者を取り込んだ一体的なプロモーションが不足している。そのため、地域資源である結城紬の磨き上げを行い、DMO形成の下地作りを行っていく必要がある。また、国内外からの誘客を促進するためには、観光地域づくりを推進し、ストーリー性を持たせた戦略的なプロモーションなどを展開していく必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
東京オリンピック・パラリンピックを見据え、増加が見込まれる観光客を結城に呼び込み、観光による地域活性化を実現するため、地域資源である結城紬を最大限に活用し、新しい人の流れをつくり、地域の稼ぐ力を強化する。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			国の重要無形文化財及びユネスコ無形文化遺産にも指定された、結城紬の活性化を図るために、後継者の育成、新商品の開発、観光客誘客のための手法を模索しつつ、結城紬のPRとインバウンドを見据えた事業展開を行う。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				